

11月定例総会 議事録(上半期終了)

1. 開催概要

本総会は、上半期終了に伴う11月定例総会として開催された。

出席者

代表 角田、代表代行兼会計 砂田、副代表 森下、理事 三宅、監事 福田、議長職 狩野川、運営部 小野の7名が出席した。

総会議題

議長任命、各委員会報告(運営部、広報部、会計、監査、理事会)、その他議題(リンクス加盟の決議、狩野川委員の提案について)、閉会宣言

2. 議長任命

会議の冒頭、議長任命が行われ、狩野川氏が議長職を拝命した。

3. 各委員会報告

運営部報告

今月期は「政治を深める共産主義編」のイベントを開催し、それに伴い、インスタライブを討論形式で4回、三宅氏単独で1回、代表と三宅氏の回を1回、合計6回実施した。イベント後には、参加者の西島氏に対し、個別でフォローアップが行われており、西島氏は入会希望の意向を示し、1月4日に面談が予定されている。また、西島氏と共に、誰でも気軽に雑談できるイベントを年内に企画する方向で進めている。

上半期を振り返り、大規模イベントを2回実施し、一定の人数を集められたことは大きな成果であった。一方で、イベント担当者の属人化により、一人あたりの負担が大きくなっている点が課題として認識されている。今後はチームでイベントに取り組める体制を整え、イベントの質の向上と開催頻度の増加を目指す。また、集客に関してはDMが効果的であり、応募はイベントの1週間前に集中する傾向があるため、広報期間の適切性を検証していく必要がある。

広報部報告

広報部は、9月以降の約4ヶ月間の活動を報告した。Instagramを中心とした広報活動は順調であり、特に大規模イベントの広告では、過去30日以内に10万回再生を2回達成するなど、多くのユーザーにリーチするアカウントに成長した。広報活動を通じて、Instagramの分析も継続して行っている。当初の方針であった「個人を立たせていく」という戦略が奏功し、代表や三宅氏と直接話したいというフォロワーが増えており、現在も複数人が代表との面談を希望している。

代表からは、Instagramのリーチ増加と団体認知度の向上に対し高い評価が示された。今後のSNS戦略として、下半期はInstagramに加え、YouTube、X(Twitter)、TikTokなどのプラットフォームも活用し、動画コンテンツの制作・運用を強化していく方針が示された。

会計報告

会計の砂田氏より、上半期の会計報告があった。過去の滞納分の収納が多く集まったことで、財政は8月、9月に比べて改善し、手元資金は826円の繰越金となった。上半期の支出はホームページ管理費(半年分)と交流会でのチラシ費用のみであり、プラス収支で下半期に移行することができた。

監査報告

福田監事より、法令に違反する事実は認められなかったものの、運営上の問題点が指摘された。会費納入の対応に遅滞が認められたため、運営陣に対応を求め、さらに団体の口座システムについて、一時情報の提出(領収書の画像など)と、請求型の会費徴収(PayPay機能の活用)の実施を運営に要求した。これに対し、代表は12月以降の会費徴収を全てPayPayで一元化し、請求型で実施していく意向を示した。

理事会報告

角田代表より、今月はイベントを1つ実施し、またInstagramを通じた交流により新しいメンバーや支援者が増えていることは、団体の将来の寿命を伸ばすために良い傾向であると述べた。

ホームページはWixへ移行し、明後日から新しくなる予定であり、URLは変更されない。Wix移行の理由として、多機能であること、およびイベントの管理や申し込みがサイト内で一元的に完結できる点(Googleフォームを経由せずに済む)が挙げられた。

団体は6月の立ち上げから12月を迎えることができ、メンバー数は1/3以上拡大した。下半期は、日本の若者の政治参加を促すという本来の目的を念頭に、SNSでの勢力拡大を活用しながら、独自イベントや他団体との協力イベントを一層強化していく方針が示された。

4. その他議題

リンクス加盟の決議

数ヶ月前から議論されていたリンクス加盟の決議について審議された。事前に競技が行われていたため、拳手による賛成決議が求められ、賛成多数で可決された。

狩野川委員の提案(政策情報調査会 PISK)について

狩野川氏より、政策情報調査会議(PISK)の設置が提案された。これは政策の調査研究および法案立案のための会議体であり、過去の自民党の政務調査会をモデルとしている。

PISKは、SPAC会員に加え、政策関連に詳しい学識経験者などを外部から招き、政策について深く議論する場として、恒常的な会議体として位置づけることが目的である。議長は代表が務め、次長3名を置く体制案が示された。

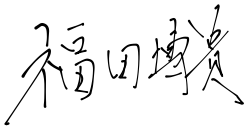
この提案について、代表は組織図と定款への影響を鑑み、PISKをSPACの下部組織として正式に位置づけるための定款改正が必要であると指摘した。その上で、SPACの代表がPISKの議長を務める枠組みとする方向で合意した。また、PISKの結論(政策提言など)を公表する際は、総会の承認を得るシステムを整備することが確認された。

今後の手続きとして、次回総会までに定款の改正案とPISKの具体的な計画書を作成し、理事会で協議を進めていくこととなった。

5. 閉会

最後に、角田代表は半年の活動を振り返り、SPACが日本の未来の姿を体現する強いエネルギーを持つ組織であると強調し、メンバーに対し、今後も共に活動を推進していくよう呼びかけた。その後、メンバーからのコメントが続き、上半期の活動への感謝と、下半期に向けた決意が共有され、閉会となった。

監事署名

Handwritten signature in black ink, appearing to read '福田博資' (Fukuda Hiroshi).

代表署名

Handwritten signature in black ink, appearing to read 'S. Smith'.